



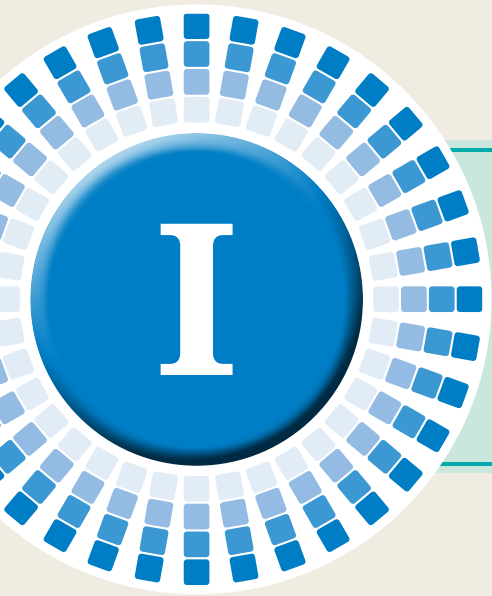
最薄で最大の成果を出す 表面ステインテクニック

横田浩史 著



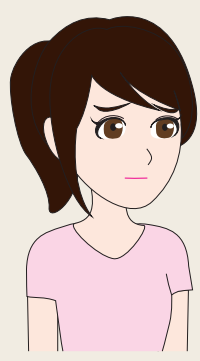
Paint Bancho's External Stain Technique
— Minimal thickness for natural appearance monolithic ceramics —

医歯薬出版株式会社

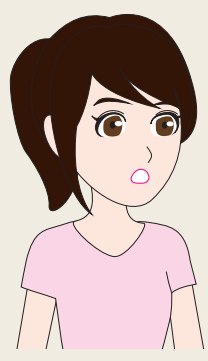
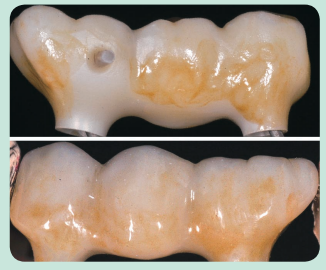


1. ステイン法って 初心者向きなんですか？

—— 筆者の考えるステイン法の立ち位置



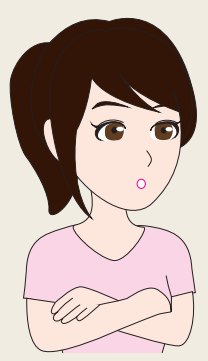
ステイン法は「初心者向き」と聞いたので簡単だと思ってたんですが、実際にやってみたら難しくて困ってます……最近ではフルジルコニアの需要が増えてきているのでステイン法は避けて通れませんし…



心配しないで、僕だって初めはそうだったし。陶材築盛という熟練のテクニックを必要としないうえに、焼成前後の色の変化が少ないことが「初心者向き」って言われる理由かもしれないね？



色を見ながら作業できるのはレジン前装冠の光重合レジンを盛っている感じに似てますね



ステイン法は初心者向きというよりも、初心者でも始めやすいというニュアンスが近いかもね



確かに天然歯の色調を再現するには、陶材を築盛するよりも塗るほうがハードルは低いような気がします

でも、薄いスペースで色調再現をしなくてはならないので、簡単かと言えば決してそうではないんだよ



POINT

クラックラインの描き方



図 2-4-10 臨床での失敗例 (1)。反対側同名歯に比べ、ラインが白く太い。白過ぎるラインは自然感がなくなるので注意が必要である。このような失敗をしないための方法を以下に示す

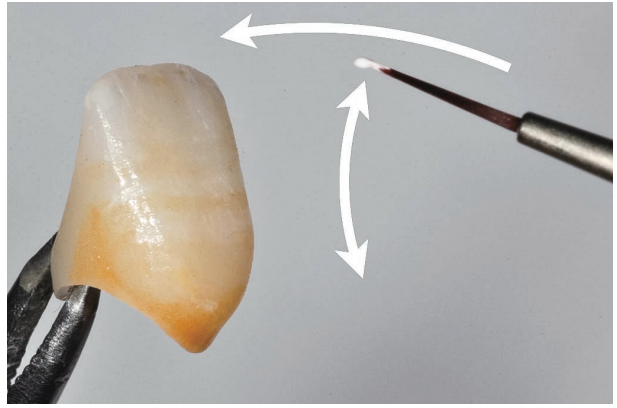


図 2-4-11 筆を上下させながら、どこにクラックラインを引くかイメージしつつ毛先を近づけていく

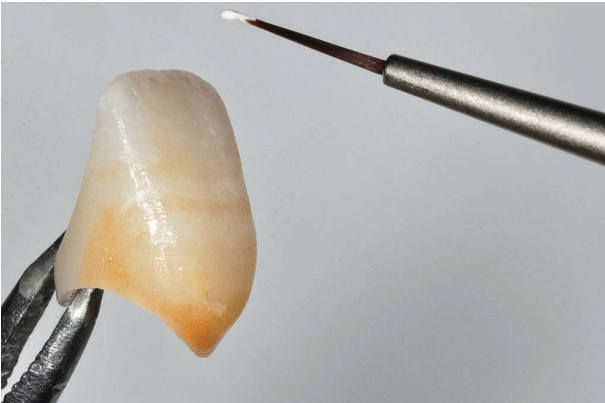


図 2-4-12 間合いを取り、適切な位置まで来たら呼吸を整え……

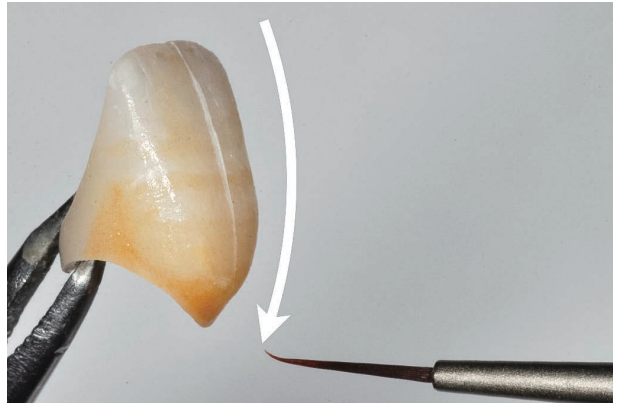


図 2-4-13 ……無心になり筆を一気に振り下ろす

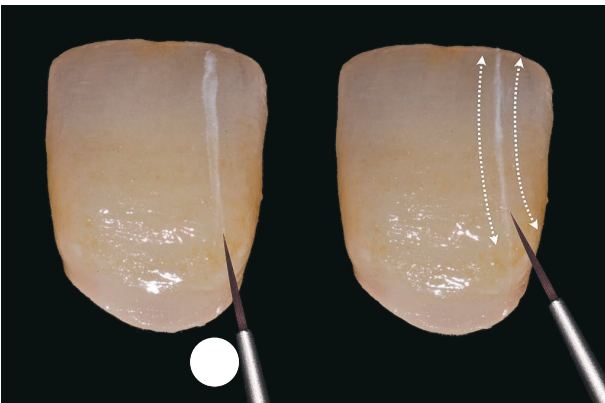


図 2-4-14 基本はラインを引いた後に、筆を使って太さを調整していく

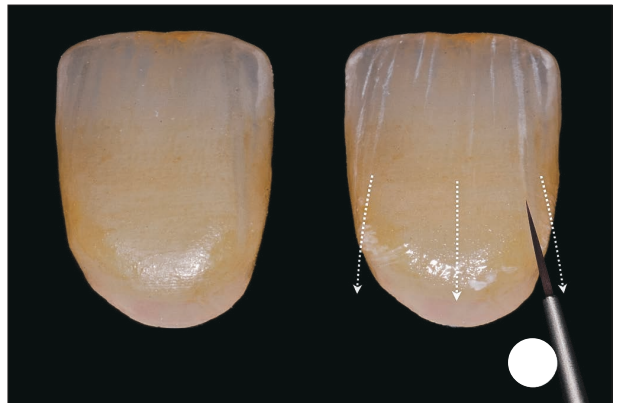


図 2-4-15 Foundationで描いておいたクラックラインの影を意識しながら切縁側よりラインを引く。ラインを平行、同じ太さ、等間隔にしすぎると自然感がなくなる



図 2-4-16 数本を一度に引く方法. 大まかにラインを引く (右)

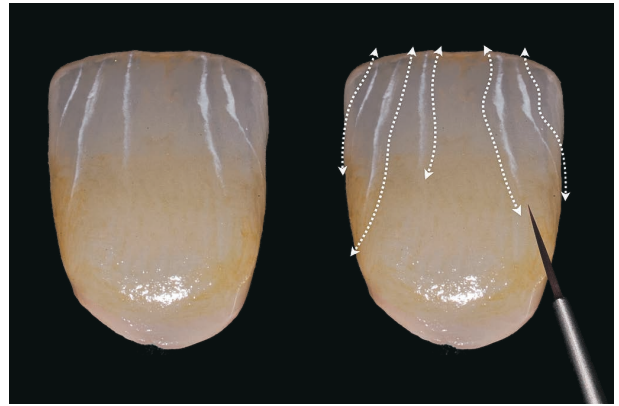


図 2-4-17 ラインの両脇のステインを拭うように細く伸ばしていき, 太さにメリハリをつけながら全体のバランスを整える (右)

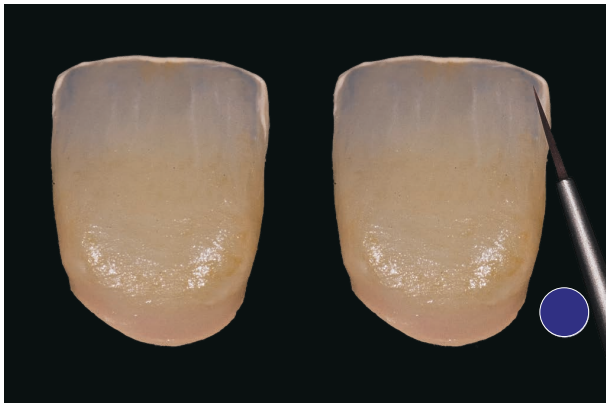


図 2-4-18 透明感を強調する方法. 近遠心隅角部に濃い目の寒色を置く



図 2-4-19 寒色を強調するために薄いクラックラインを引き, メリハリと奥行きを表現する

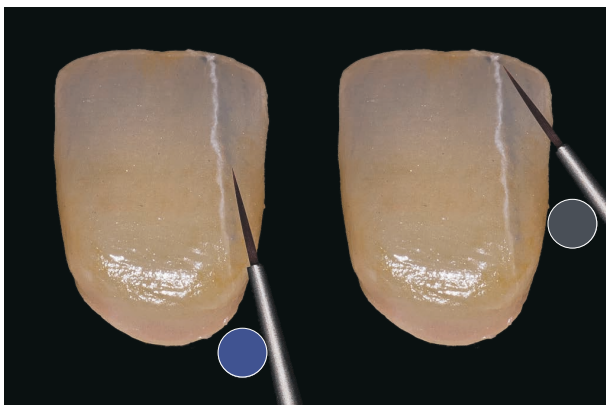


図 2-4-20 ラインと影を描く方法. ラインを引いた後にラインの光源の逆側に影を (左), インサイザルハイローと交わるところに黒色の点を描く (右)

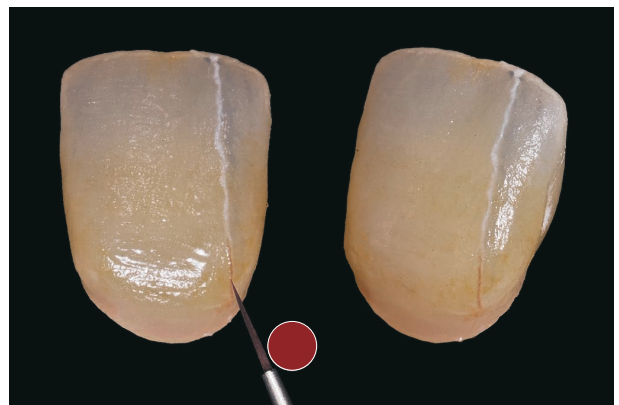


図 2-4-21 自然感を表現するためにラインの延長線上に薄くヘアラインを描くこともある

POINT

見える方向を考慮して彩色を行う



図 3-2-21 ~ 24 正面から見る上顎歯列と違い、下顎歯列はやや上方から見下ろす。そのため、開口時には下顎臼歯部の咬合面も審美領域になり得る



図 3-2-25 ステインを彩色する場合も同様に「視点」を決めて、そこから見えるところに彩色を行う。犬歯～大臼歯に関しては、それぞれの歯の唇側からではなく、歯列の正面から彩色するようにする



図 3-2-26 インサイザルヘイローを描写するにあたっては、正面からのみ観察し、見たままの位置に描くようにする(対話する場合、通常は正面から見るため)。赤は正面から、黒はやや斜め唇側から見えるインサイザルヘイローの位置

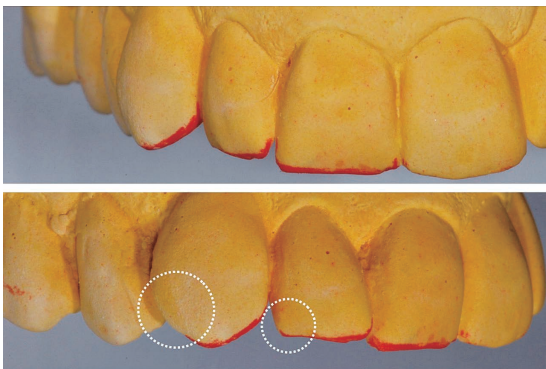


図 3-2-27 配列にもよるが、正面から見えるインサイザルヘイローを描写した場合、やや斜め唇側から見ると遠心側でラインが途切れる

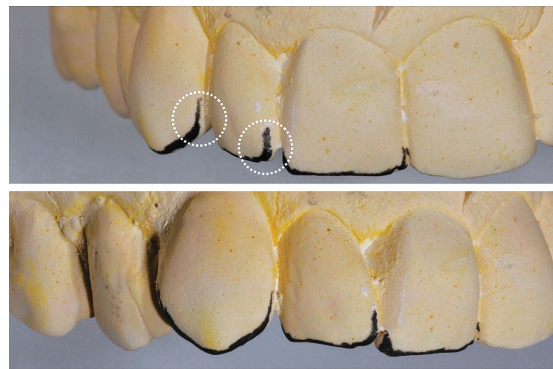


図 3-2-28 一方で、やや斜め唇側から見えるインサイザルヘイローを再現すると、正面から見た時、近心側に不自然なラインが現れる

汚れ（ステイン）の彩色

ステイン法で歯の表層に後天的に付着した「汚れ」を彩色することは、天然歯の再現性を高めることにつながる。だが、中には汚れの再現に対し嫌悪感を抱く患者もいるため、事前確認が必要であろう。

「汚れ」の再現に使用するステインは高彩度（色が濃い）であることが多く、口腔内で非常に目立つ。そのため、適切な位置に彩色しないと不自然さが強調され、見た目にも汚い補綴物になってしまう。汚れを「雑な汚れ」から「自然な汚れ」にするテクニックを以下に示す。



Fig.3-2-1 コンタクトポイント周辺の汚れの表現方法。クラウン等を模型に入れた状態にして着色する



Fig.3-2-2 コンタクトポイントを取り囲むようにステインが施されているのがわかる。後にコンタクト調整する際、位置を確認しやすい

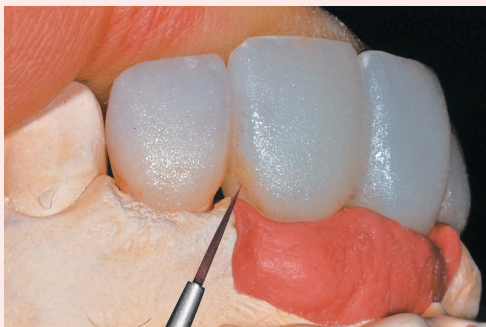


Fig.3-2-3 コンタクト周辺、隣接面、歯頸部付近の汚れの表現方法。歯肉の位置も確認できるソリッドモデルや歯肉付き模型を使用し、汚れの付きそうな場所にステインを施す



Fig.3-2-4 模型に入れた状態でステインをすることで、コンタクト周辺や歯頸部付近の適切な場所に必要な範囲で汚れを描くことができる。もし、模型から外した状態で汚れを描いた場合、実際に口腔内に装着すると違和感が出ることになる

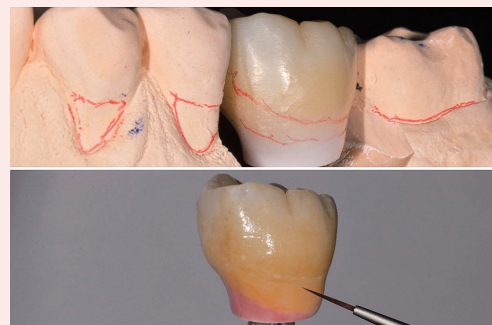


Fig.3-2-5 模型から外して彩色する場合は位置関係を赤いシャープペンシルで記入しておくとうわかりやすい